

[成果情報名]積雪地帯におけるハウレンソウの露地秋播き春どり栽培法

[要約]ハウレンソウ露地栽培で、4月に良品を安定生産するには、前年の10月20日頃に播種し、融雪後の3月中旬に追肥、3月下旬にトンネルを被覆する。この作型に適する品種は「サンピア」である。

[キーワード]ハウレンソウ、品種「サンピア」、露地秋播き春どり、追肥、トンネル

[担当]山形農総研セ・農生産技試・野菜花き研究科

[代表連絡先]電話0237-84-4125

[区分]東北農業・野菜花き（野菜）

[分類]技術・参考

-----  
[背景・ねらい]

4月の山形県内市場でのハウレンソウは、単価が比較的高い場合が多いが、県外産の比率が高く、県内の生産が望まれている。そこで、晩秋から春まで耕作されることの少ない露地圃場を用いて、4月に収穫する作型を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. この作型に適した品種は「サンピア」である(表1)。  
「サンピア」は、抽苔や葉先枯れが少なく良品収量が多い。
2. 4月に良品を安定生産するためには、前年の10月20日頃に播種する(表2)。
3. 根雪までに、葉数が10枚を超えると、抽苔や葉先枯れ等の障害が発生する可能性が高くなる。  
根雪前の葉数は5枚程度が適正である(表2)。
4. 3月下旬にトンネル被覆することにより、平均収穫日は約10日早まり、葉先枯れや土付き株の発生が減少し品質、良品収量が向上する(表3)。
5. 融雪後に、窒素成分で2.5kg/10aを追肥することで、収穫期が前進し、良品収量が向上する(表2)。
6. 停滞水位が低い排水の良好な圃場ほど、生存株率や、収穫期の地上部重が増加する(表4)。

[成果の活用面・留意点]

1. この作型の適応地域は、例年3月中旬までに融雪する地帯を目安とする。また、秋や春の気象条件により、収穫時期や品質は変動する。特に、融雪が遅く収穫時期が遅れた場合は、抽苔率が高まる可能性があるので注意する。
2. 追肥時は、肥料焼けを起こすことがあるので注意する。
3. トンネル被覆は、終日片側を10cm程度開放する。

[具体的データ]

表1 品種と収量品質

(2006~2007)

品 種 (メーカー)	播種日 月/日	追肥 月/日	トンネ ル被覆 月/日	平均 収穫日 月/日	良品収量 <sup>z</sup> kg/10a	良品株率 %	主な品質低下要因		
							抽苔株 %	葉先枯れ %	葉の縮れ %
サンピア (カネコ)	10/26	3/15	3/27	4/14	1,545	81	3	0	0
プラトン (サカタ)	10/26	3/15	3/27	4/20	872	56	13	7	0
トラッド (サカタ)	10/26	3/15	3/27	4/10	0	0	10	23	97

z: 主な品質低下要因ほか、生育不良、土付きや食害のない株を良品とした

表2 播種日、追肥量と収量品質

年次	播種日 (月/日)	追肥量 (Nkg/10a)	根雪前の 葉数 (枚/株)	平均収穫 日 (月/日)	良品 収量 <sup>z</sup> (kg/10a)	良品 株率 (%)	主な品質低下要因		
							抽苔 株 (%)	葉先 枯れ (%)	葉の 縮れ (%)
2006~2007	10/12	2.5	未調査	4/3	742	38	7	47	0
	10/19	2.5	12.2	4/3	996	55	0	10	0
		0.0		4/25	402	31	50	3	0
	10/26	2.5	10.6	4/14	1,545	81	3	0	0
		5.0		4/6	981	62	0	0	7
2007~2008	10/19	2.5	5.1	4/14	909	82	0	0	0
	11/1	2.5	1.7	4/21	781	90	0	0	0

z: 主な品質低下要因ほか、生育不良や食害などのない株を良品とした。

表3 トンネル被覆の効果

(2006~2007)

トンネル 被覆	平均収穫日	良品収量 (kg/10a)	品質低下要因(重複あり)				
			抽苔 (%)	葉先枯れ (%)	縮れ (%)	土付き (%)	鳥害 (%)
あり	4/3	996	0	10	0	3	17
なし	4/12	198	23	47	7	37	30

※トンネル被覆日: 3月27日 品種: サンピア 播種: 10月19日

表4 降雨後の停滞水位と生育<sup>z</sup>

(2006~2007)

降雨1日後の 停滞水位 <sup>y</sup>	12月8日 4月26日		4月26日		
	生 存 株 率 (%)	生 存 株 率 (%)	地上部 全重 (g/m <sup>2</sup> )	地上部 全長 (cm)	直根の 長さ (cm)
0cm(栽培床面)	38	28	913	26.4	5
-15cm	82	70	850	18.5	14
-30cm	94	80	1,776	26.9	22

z: 品種サンピア、播種日10月19日

y: 排水条件に差をつけるため、25mm/日以上 of 降水の翌日の水位に差が出るように、栽培床の高さを変えて区を設定した。

栽培概要  
 供試圃場: 場内畑  
 基肥: N7kg/10a (燐硝安加里S604通路含み全面全層)  
 栽植様式: 1穴1粒播種、株間5cm (2006年播種は6cm)  
 条間20cm、3条、畝幅130cm、

[その他]

研究課題名: 積雪地帯におけるダイコン・ハウレンソウ等の越冬早春どり作型確立

予算区分 : 受託

研究期間 : 2005~2007年度

研究担当者: 中西政則、齋藤克哉